

天理市埋蔵文化財センターだより

Vol.6

特集 『発掘の現場から -地下に眠る天理の昔々-』

豊田山丘陵周辺の遺跡

別所ツルベ遺跡

別所大塚古墳・塚山古墳

・別所罐子塚古墳・袋塚古墳



◎夏の文化財展

『発掘の現場から

-地下に眠る天理の昔々-』

豊田山丘陵周辺の遺跡

2008年8月16日(土)

～30日(土)

天理市文化センター

1階展示ホールにて

※月曜日は休館日

◎文化財講演会と展示解説

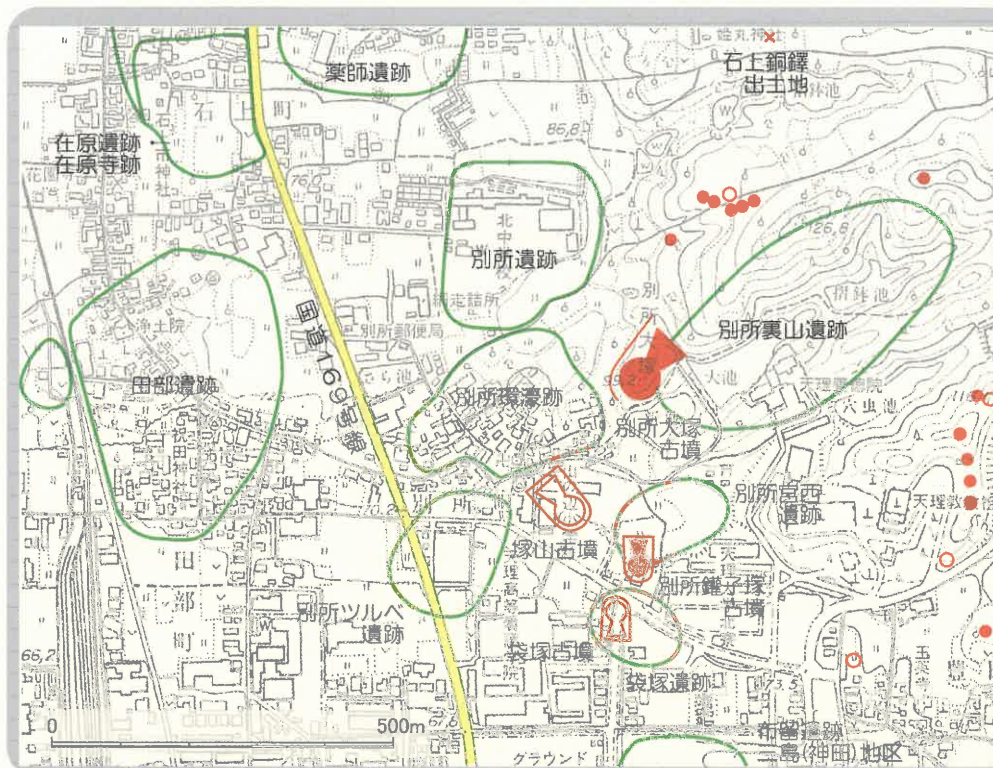
8月23日(土)午後2時から

かがやきプラザ3階会議室にて

天理市教育委員会文化財課では、これまでに市内の遺跡における多くの発掘調査を実施しています。そのなかには開発行為に伴う発掘調査のみにかぎらず、遺跡の範囲確認や、史跡整備に伴う学術目的の調査も実施していますが、これらの調査成果についてはなかなか市民の皆さんの目に触れる機会がなく、その内容について知られることも少なかつたと思います。

そのため、平成18年度より『発掘の現場から-地下に眠る天理の昔々-』を統一テーマに、夏と冬に年2回の文化財展示をおこない、市内の埋蔵文化財について理解を深めていただけるように努めています。

今回の「センターだより」では、市内北部の豊田山丘陵周辺、別所町を中心とした地域の遺跡について紹介することにします。



■空から見た別所町周辺

■豊田山丘陵周辺の遺跡分布

別所ツルベ遺跡

別所ツルベ遺跡は、豊田山丘陵南西裾の浅い谷地形上に立地する集落遺跡です。平成6(1994)年の調査では、直径30mくらいの範囲に2棟の住居跡と3基の埋甕遺構などの遺構が集中して見つかり、小規模な集落の存在が明らかとなりました。

これらの遺構の時期は、出土した縄文土器からおおむね縄文時代後期後半頃(約3500年前)と考えられています。

この時の調査では、縄文時代後期後半以降の遺構も多く見つかり、弥生時代中期前半から古墳時代中・後期にかけての溝や土坑などの生活痕跡の存在も知られることになりました。

また、平成19(2007)年に遺跡北東の丘陵側で実施した調査の際には、古墳時代後期の埴輪片がたくさん出土しています。



■別所ツルベ遺跡の調査区全景



■お墓と考えられる埋甕遺構



■ヒスイ製の首飾り

埋甕遺構とヒスイの玉

別所ツルベ遺跡では、お墓とも考えられる埋甕遺構とそれに伴う副葬品らしきヒスイ製の首飾りが見つかりました。

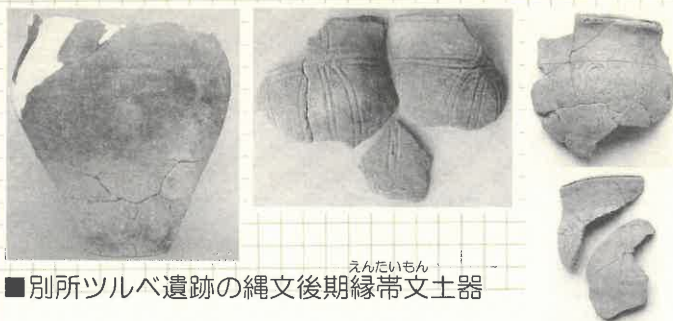
首飾りは、長さ3cmで幅2.5cmほどの小型品ですが、新潟県の糸魚川付近を原産地とするもので当時としてはとても貴重な宝石であったようです。

別所ツルベ遺跡の縄文土器

縄文時代の遺構や遺物包含層から出土した縄文土器は、そのほとんどが縄文時代後期の縁帯文土器とよばれる種類の土器で占められています。

そのなかには、関東・東北や山陰・南九州などの遠方より運ばれてきた土器も見つかり、当時の人々の交流範囲の広さを知ることができます。

また、弥生時代直前の縄文晩期突帯文土器も出土しており、新たな時代に向けての集落の展開が見られました。



■別所ツルベ遺跡の縄文後期縁帯文土器

えんたいもん

天理市北部の豊田山丘陵周辺には、古墳時代後期（6世紀頃）を中心とする古墳が多数分布しています。ここでは別所町付近に集中する4基の前方後円墳をご紹介します。

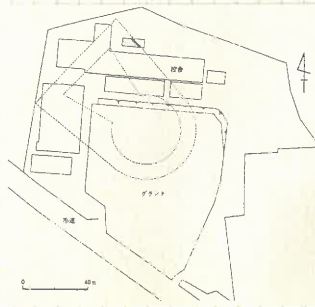
別所大塚古墳 べっしょおおつかこふん

別所大塚古墳は、別所集落の東北に位置する全長約125mの前方後円墳です。墳丘の周囲には部分的に周濠が残る様子を観察することができます。

発掘調査はおこなわれていませんが、後円部が大きく破壊されており、既に盗掘されているものと思われます。大正時代に刊行された『山辺郡誌』には、石棺とともに、鈴、鉄鏃、鉄刀など多数の副葬品が出土したとの伝承が記載されています。



■別所大塚古墳



■塚山古墳の位置復元図と周濠の見つかった調査区の全景

塚山古墳 つかやまこふん

塚山古墳は現在の天理市立山の辺小学校敷地にかつて存在した古墳です。

『山辺郡誌』によると、東西約49m、南北約36mほどの規模で、周囲に池状の周濠があったとされています。

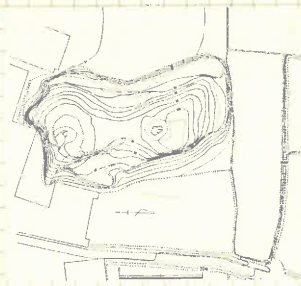
平成2(1990)年度におこなった発掘調査では、古墳の周濠の一部を確認し、円筒埴輪片が出土しました。出土した埴輪の特徴からみて5世紀後半頃に築造されたと考えられています。

別所罐子塚古墳 べっしょかんすづかこふん

別所罐子塚古墳は山の辺小学校の東側に位置する全長約57mの前方後円墳です。墳丘は破壊が進んでおり、東側、南側は本来の形状を留めていません。

すでに盗掘がおこなわれているようですが、前方部と後円部に石棺が1基ずつ露出していました。

また、墳丘では埴輪片が採集されています。6世紀前半頃に築造された古墳と考えられています。



■別所罐子塚古墳

袋塚古墳 ふくろづかこふん

袋塚古墳は別所罐子塚古墳の南側にかつて存在した古墳です。現在は完全に削平されておりその姿を見ることはできません。

昭和60(1985)年度におこなった道路工事にもなう発掘調査では、埋没していた古墳周濠から多量の埴輪片が出土しました。調査成果からみて、袋塚古墳は全長50m程度の前方後円墳で、6世紀前半頃に築造されたと考えられています。



■袋塚古墳と埴輪の出土状況



出動！発掘現場レポート！！

平成19年度下半期の調査

天理市教育委員会は、平成19(2007)年度下半期に発掘調査を7件実施しました。ここではその成果をいち早くお知らせいたします。

■別所ツルベ遺跡第4次

市道拡幅工事に伴い発掘調査をおこないました。明確な遺構は近代の耕作のためにあまり残っていませんでしたが、丘陵斜面の旧地形のくぼみから、古墳時代後期の埴輪の破片がまとまって出土しました。

■赤土山古墳第9次

赤土山古墳で進めている史跡整備事業に伴い、後円部造り出し上面の発掘調査をおこないました。造り出し上面に円筒埴輪列があることがわかり、古墳の復元をおこなう上で重要な手がかりとなりました。出土した円筒埴輪は古墳時代前期末～中期初頭ころのものでした。

■成願寺遺跡第15次

大和古墳群基礎調査の一環として、兵庫町の休耕地を発掘調査しました。古墳時代前期～中期の川が2本見つかри、その中から多くの土器が出土しました。

川が埋まってしまったあと、室町時代～戦国時代ごろには今のように田畑になっていたようで、そのころの地層から「私鑄銭」と呼ばれる値打ちの低いお金が出土しました。

〔災害復旧事業に伴う調査〕

平成19(2007)年に発生した大雨災害の復旧事業に伴い計4件の発掘調査をおこないました。

■渋谷向山古墳隣接地

渋谷向山古墳（景行天皇陵）南側の川筋を2ヶ所調査しました。江戸時代以降に築かれた利水のための施設が残っていました。

■向山遺跡第2次

柳本大塚古墳南東側の水路を調査しました。弥生時代後期～古墳時代前期の土器片が出土し、近隣に同時期の集落が存在した可能性が高まりました。

■成願寺遺跡第16次

下池山古墳南側および西側の水路を調査しました。古墳に伴う遺物は出土しませんが、江戸時代に築かれた井堰や石垣が残っていました。

平成19年度の調査成果は
今年冬の文化財展で
展示するよ！



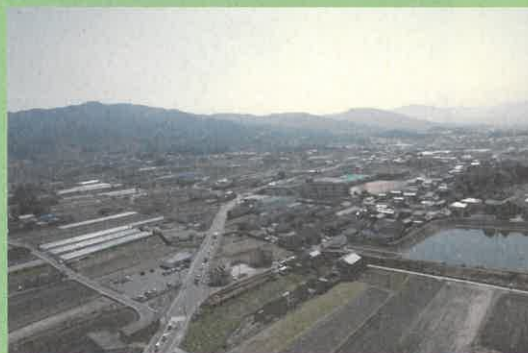
■平成19年度下半期の調査遺跡



■別所ツルベ遺跡第4次
調査区全景



■赤土山古墳第9次
調査区全景



■成願寺遺跡第15次
調査区遠景（画面下中央）

発行◆天理市教育委員会 文化財課
天理市埋蔵文化財センター
〒632-0017 奈良県天理市田部町320
Tel・Fax 0743-65-5720
印刷◆東洋印刷㈱ 天理市兵庫町104-4